

実践報告

札幌市立丘珠中学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験学習の研究」

- アイヌ民族の歴史や文化について理解を深める。
- 自分たちとは異なる文化や価値観に触れる体験を通して、人間尊重、共生社会への意識を高める。

(2) 実践の内容

【実践①】ミュージカル観劇について

- ねらい
 - ・ アイヌ民族と松浦武四郎の交流を描いたミュージカル「松浦武四郎 カイ・大地との約束」を鑑賞することを通して、アイヌ民族の文化について関心を高め、アイヌ民族が差別されてきた歴史について理解する。
- 学習内容
 - ・ 松浦武四郎やアイヌ民族の生活様式について、事前学習する。
 - ・ ミュージカル「松浦武四郎 カイ・大地との約束」を観劇する。

【実践②】「アイヌ文化に触れる」について

- ねらい
 - ・ アイヌ民族の方々との交流を通して、文化の多様性を理解し、自分たちとは異なる文化や価値観を尊重する態度を養う。
 - ・ アイヌ民族が受け継いできた舞踊や楽器について、体験的に学ぶ。
- 学習内容
 - ・ アイヌ民族の歴史や文化についての講話を聞く。
 - ・ アイヌ民族の伝統楽器、ムックリやトンコリの演奏を鑑賞する。
 - ・ アイヌ民族の古式舞踊を鑑賞する。
 - ・ アイヌ民族の古式舞踊の輪踊りを全校生徒で体験する。



【写真：アイヌ民族の方の講話】



【写真：トンコリの演奏】

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 社会科の授業に、ミュージカル鑑賞、アイヌ舞踊の体験学習を組み合わせることによって、アイヌ民族の歴史や文化について理解を深めることができた。さらに、異文化をもつ人への理解と尊重の大切さに気づき、差別を無くして共生していくためには何が必要かについて、深く考える生徒も見られた。
- ミュージカル鑑賞については、地震の影響によって公演が中止になり、DVDでの鑑賞となってしまったことが残念だったが、体験学習と同様の踊りなどが劇中に使われていたので、関心をもって鑑賞することができた。
- 観劇をすることで、アイヌ民族が差別を受けてきた歴史について実感をもって理解を深めることができた。また、松浦武四郎の生き方を、異文化理解、共生のモデルとして捉えさせることができた。
- アイヌ民族の方々を招いての体験学習は、小規模校の利点を生かして、全校生徒で取り組むことができた。
- アイヌ民族の方々から直接、話を聞くことで、身近なところで、生活していることを実感し、関心をもって多くの生徒が質問することができた。



【写真：アイヌ舞踊を全校生徒で体験】

② 課題

- 異文化理解、人権についての教育は、社会科、英語科を始め、道徳、総合的な学習の時間、特別活動も含めて、教育課程全体の中に計画的に位置付けて実施することが大切である。
- 生徒にとって、人を大切にすることや、差別をしないこと、共生していくことなど、表面的には理解できる。しかし、そうするためには何が必要かについて、深く考えさせることが大切であり、そのための時間の確保が課題であると感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 今回の実践を通して、アイヌ民族の歴史や文化を体験的に学ぶことは、人間尊重、共生社会への意識を高めるために大変効果的であることが分かった。
- アイヌ民族の伝統舞踊を体験する機会は、教師にとっても貴重なものとなった。まず、教師が実感をもってアイヌ民族を理解することが大切である。
- この学習をさらに発展させて、いじめの問題や差別の問題、平和について、生徒に考えさせていくことができると感じた。